

リハビリテーション科専門研修プログラム

診療科の特色

リハビリテーションは、医師、看護師、療法士（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）、その他関連職種を含む多職種がチームで一人一人の患者に関わってその生活機能を高め、また、生活環境、地域社会に働きかけて、全人的な生活の質を高めるために遂行されます。この中でリハビリテーション科医は、障害に対する専門的治療技能と幅広い医学的知識、経験を持ち、他の専門領域と適切に連携するチームリーダーとしてリハビリテーションを主導する役割を持ちます。リハビリテーション科の診療では各専門診療科からのリハビリテーション依頼に対して評価を行い、目標設定・治療計画を立案してリハビリテーション処方を行います。そしてリハビリテーションが開始されると、専門診療科主治医、リハビリテーション専門職（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）や看護師等と連携して、患者さんの治療・支援を行います。リハビリテーション科医師は定期的にリハビリテーションの効果判定を行い、患者さんに関わる多職種の医療スタッフ（チーム）の中心として、患者さんの在宅復帰、社会復帰を進めます。



リハビリテーション棟入口

専門研修の魅力

長野県におけるリハビリテーション医療の実際を見ると、リハビリテーション科専門医は37名（全国では2146名）、うち指導医22名で、専従の指導医が常勤でリハビリテーション科が独立している施設はわずか11施設に過ぎず、長野県全体のリハビリテーション医療の需要に対応することは困難な状況です。長野県におけるリハビリテーション医療の連携と充実を目標に、信州大学医学部附属病院では2015年夏からリハビリテーション科として初期研修、専門研修を行うための準備を行ってきました。将来的には新専門医制度における基幹施設として、県内連携施設と協力して長野県全体のリハビリテーション医療発展の中心的役割を担う組織になると思われます。専門研修については、主に大学では全領域の急性期疾患の診療と希望に応じた研究テーマの設定、遂行が中心になりますが、回復期、維持期リハビリテーションについても近隣連携施設にて一定期間行えるように配慮する予定です。新しい組織であるため経験不足、人員不足は否めませんが、逆に将来に関する自由度は大きく、今後専門研修を選択していただく皆様の力がそのまま組織の発展に寄与するということにやりがいがあると思います。

研修カリキュラム

(1) 研修期間

リハビリテーション科専門医は初期臨床研修の2年間と日本リハビリテーション医学会が認定した研修施設において3年以上の専門研修（後期研修）で育成されます。すなわち専門研修期間3年以上で必要症例数等の条件を満たすと、リハビリテーション科専門医試験の受験資格が得られます。

(2) 研修内容

専門研修の修了判定には以下の8領域について経験症例数が必要です。日本リハビリテーション医学会専門医制度が定める卒後研修カリキュラムに基づいて幅広く研修を行います。

- 領域1 脳血管障害、その他の脳疾患（脳外傷含む）
- 領域2 脊髄損傷、その他の脊髄疾患（二分脊椎など）
- 領域3 骨関節疾患（関節リウマチ・外傷を含む）
- 領域4 脳性麻痺、その他の小児疾患
- 領域5 神経・筋疾患

領域6 切断

領域7 呼吸器・循環器疾患

領域8 その他(悪性腫瘍、熱傷など)

専門医試験受験には領域1～7について、原則として、それぞれ3症例以上(領域1～8の合計で30症例)の症例報告提出が必要です。ただし、領域3～7のうち、3つの領域については1症例以上の提出でも申請可能です。またこれらを含む経験症例100例のリストと、日本リハビリテーション医学会での主演者としての2回以上の発表が必要となります。

信州大学医学部附属病院リハビリテーション科では上記8領域全ての主に急性期症例を研修できます。研修は信州大学医学部附属病院を中心に行いますが、回復期、地域連携等については状況に応じて近隣施設での研修を計画します。

各年毎のおよその研修目標は下記の通りです。

<専門研修1年目>

指導医の助言・指導の下に、基本的診療能力を身につけるとともに、リハビリテーション科の基本的知識と技能の概略を理解し、一部を実践できることを目標とします。

<専門研修2年目>

基本的診療能力の向上に加えて、診療スタッフへの指導にも参画します。リハビリテーション科基本的知識(障害受容、社会制度など)・技能(高次脳機能検査、装具処方、ブロック療法、急変対応など)を幅広い経験として増やすことを目標とします。

<専門研修3年目>

カンファレンスなどでの意見の集約・治療方針の決定など、チーム医療においてリーダーシップを発揮し患者さんから信頼される医療を実践できる姿勢・態度を習得します。またリハビリテーション分野の中で8領域の全ての疾患を経験できているかを意識して、実践的知識・技能を習得することを目標とします。



心リハ室

信州大学医学部附属病院における研修週間計画

	月	火	水	木	金	土	日
8:30-9:30回診							
9:30-10:00リハ科カンファレンス							
10:00-12:00リハ患者診療							
13:00-17:00リハ患者診療							
10:00-12:00義肢・装具外来							
14:00-16:00心リハ外来							
13:30-14:00呼吸サポートチーム回診							
16:00-17:00整形外科回診							
15:00-16:00嚥下造影							
15:00-16:00神経伝導速度、筋電図							
17:00-17:30循環器カンファレンス							
17:30-18:00救急カンファレンス							
19:00-21:00関連施設合同カンファレンス(3~4か月に1回)							

※その他、各領域のカンファレンスあり。

(3) 専門研修医受け入れ数、採用について

受け入れ人数は特に制限を設けていません。

毎年7月頃から病院ホームページでの広報や研修説明会等を行い、リハビリテーション科専門研修医を募集します。応募者は、12月末までに御連絡ください(詳細については信州大学医学部附属病院卒後臨床研修センターウェブサイト(<http://wwwwhp.md.shinshu-u.ac.jp/sotsugorinsho/>)あるいは信州大学医学部附属病院リハビリテーション科/リハビリテーション部ホームページ(<http://www.shinshu-u-reha.jp/>)を参照)。施設見学、面接等は随時行います。採否については書類審査、面接を行った後に本人に文書で通知します。

サブスペシャリティー・学位取得の道筋

リハビリテーション科専門医を取得した医師は、各サブスペシャリティー領域専門医申請資格を満たすことができれば感染症専門医、リウマチ専門医などの資格を取得することが可能です(新専門医制度施行後の体制は未定)。学位については研修期間中から社会人大学院や臨床医学研究系大学院に在籍して、リハビリテーション科医師としての実務研修を行いながら研究を行うことで最短で学位取得の可能性があります。

大学院での研究テーマ、臨床研究のテーマなど

臨床業務のない大学院の期間に関しては研修期間として取り扱うことはできませんが、社会人大学院や臨床医学研究系大学院に在籍し、臨床に従事しながら研究を行う期間については、そのまま研修期間に含めることができます。テーマについては信州大学医学部附属病院において特に力を入れている骨関節疾患、内部障害、がんのリハビリテーション等から選択できます。

国内留学・海外留学

専門研修期間中(最短で3年間)は日本リハビリテーション医学会が認定する研修施設であれば継続的にリハビリテーション研修を受けることが可能です。

また、海外留学に関しては研修期間として取り扱うことはできないため、原則的には専門医取得後に目標や希望に応じて考慮されます。

将来の就職先など

信州大学医学部附属病院リハビリテーション科を中心として、主に県内の急性期、回復期病院にリハビリテーション科医師として勤務できる可能性があります。リハビリテーション科専門医、指導医が常勤している施設以外にもリハビリテーション科専門医を求める施設は多数あるものと思われます。県内には専従の専門医、指導医が常勤でリハビリテーション科が独立している施設は少ない状況ですが、リハビリテーション科に専従する専門医が増えることで、新規にリハビリテーション科医師を採用する病院は増えると思われます。



理学療法室全景



リハビリテーション科スタッフ

連絡先

信州大学医学部附属病院 リハビリテーション科

■住所: 〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1 ■電話: 0263-37-2836 ■FAX: 0263-37-2835

■E-mail: rihaka@shinshu-u.ac.jp

■U R L: <http://www.shinshu-u-reha.jp/>

■専門研修プログラムの詳細は、信州大学医学部附属病院HP 卒後臨床研修センター → 専門研修 [リハビリテーション科]